

## 7) 無ニッケル非磁鐵の研究

九州帝國大學工學部冶金學教室教授  
工學博士 工學士 谷村 照君  
閉會之辭  
日本鐵鋼協會々長 松下長久君

## III. 日本鐵鋼協會第 28 回通常總會

日時 昭和 18 年 4 月 3 日 (土) 午前 11 時 37 分開會 午後  
0 時 35 分閉會

會場 東京市神田區一ツ橋 2 丁目 9 番地 帝國教育會館第 1 會  
場

閉會之辭 社団法人日本鐵鋼協會 會長 松下長久君

## I. 議事

- イ 昭和 17 年度會務報告
- ロ 昭和 17 年度收支決算報告
- ハ 昭和 18 年度收支豫算報告
- ニ 任期満了役員 (評議員) 改選 (投票・開票)
- ホ 鐵鋼業の趨勢

## II. 表彰式

- イ 服部賞贈呈式
- ロ 香村賞贈呈式
- ハ 俵賞贈呈式
- ニ 渡邊賞贈呈式

## 會長開會の辭並に議事録

社団法人日本鐵鋼協會會長 松下長久

(午前 11 時 37 分開會)

是から第 28 回の通常總會を開會致します。

## I. 會務報告

簡単に會務の御報告を申し上げたいと思ひます。御手許に報告書を差上げてございますので、細かいことは省略させて頂きまして、其の中の主なるものに付きまして、御報告を申し上げたいと存じます。

## 1. 本協會の發展

此の大戦争下に於きまして、鐵鋼の増産、其の質の向上、此の二つの問題は、我々鐵鋼業に携はる者に課せられました大きな問題でございます。最近戦局が益々擴大されて、色々の物資が必要になつて参つて居る中にも、此の鐵鋼の必要は益々増加して参りました。此のことから内地に於きまして多量の鐵鋼を御使ひになる各種工業の發展により益々多忙になりました關係上、鐵鋼協會に御入りになる方が最近特に増加せられて、昨年 2 月末には總會員數 5253 名でございましたのが、今年 2 月末に於きましては 6139 名となり、916 名の増加になつて居りまして、最近では毎月約 100 名位、入會せられて居ります。是は先程も申しましたやうに、我が國に於ける鐵鋼業、及びそれを使ふ各種の事業が發展し、以て此の曠古の大戦争を勝抜かんと心強き現はれたと存ずる次第であります。

## 2. 研究部會

協會は色々の仕事をやつて居りますが、其の中にも此の鐵鋼の

製造並に其の質の向上に關する研究は、最も力を入れて居る仕事の一つでありまして、随つて之に關聯して各種の研究部會が開催されておりますが、既に昨年秋の大會にも御報告致しましたが、電氣製鋼研究部會、是は昭和 14 年 4 月に川崎舎博士を委員長に御依頼致しまして、既に昨年まで 5 回の部會を開かれ、小委員會は實に 65 回に達する委員方の御努力の結晶によりまして、昨年 4 月に其の總會を開催の上終了されたのであります。目下報告書を整理中でございますから、近く皆様の御手元に御送り出来る事と存じて居ります。

第二は電氣製鋼と兄弟と申しますか、關係の深い鋼鑄物の研究部會でございます。鋼鑄物は必ずしも電氣爐に依るとは限りませぬが、最近では電氣爐を使用する場合は相當に多いのであります。此の鑄物の研究が又我が國に取りまして非常に大切であると云ふことから、當協會と日本鑄物協會とが聯合致しまして、石川登喜治博士に委員長を御願ひして、昨年 10 月第二回の總會を開いて、是も終了致しました。近く整理中の報告書が完了致しますれば貴重なる資料になる事と存じます。

第三は自動車用鐵鋼材の研究部會でございます。是は機械學會と聯合で吉川博士に委員長を御願ひし、之の研究を重ねて居りまして、昭和 14 年から 15 年に掛けて三回の研究部會を開いたのであります。最近代用鋼の使用が益々多方面且多量になつて参りましたので、此の研究部會を主に其の方面に向けて續行中でございます。

それから平爐の熱測定に對する研究部會でございますが、是は既に昭和 14 年から 16 年に掛けて、海野博士が委員長として熔鑄爐の熱的研究、溫度測定等につきましては大體終了致しましたが、最近御承知のやうに燃料の性質が低下致しましたので、之の對策的見地から又研究が必要になりましたので、海野博士を中心にして續行致すことになり、今年 5 月に滿洲鞍山の昭和製鋼所に於きまして當部會を開くことになつて居ります。

次に耐火材料の研究部會でございますが、御承知の通り耐火材料は我々鐵鋼業に取りましては、熔解加熱等各種の仕事に關聯して非常に必要なものであります。其の中の一つである造塊關係の耐火材料、例へば取鍋、内張用煉瓦、ストップ、ノズル、スリーブ等と各種煉瓦の材質、形狀に關する研究部會を日本窯業協會と聯合して日本窯業協會理事長の黒田泰造さんに委員長を御願ひしてやつて居りましたが、是も昨年終了致しまして、標準規格の案が出来ましたので、技術院規格統一調査會に關係書類を提出し、又當協會の會誌にも之を載せまして、廣く御意見の御發表を願つたのであります。近く技術院に於て御審議になる事と存じますが何れにしましても是等の研究が各方面に貢獻する所多大であると信じて本會の使命達成の一部と存じ欣幸とする所であります。

次に優良特殊鋼の製造に對する鹽基性平爐に關する研究に就て海軍省艦政本部第 5 部から當協會に御依頼がございましたので、吉川博士に之の起案を御願ひ致して居ります。是は十七年度の問題ではございませぬが、序に御披露申しておきます。

## 3. 今泉記念資金

次は今泉博士の記念資金の件でございます。御承知のやうに鐵鋼協會は各種の記念資金を戴いて居りまして、それに依つて今日も名譽ある方々の表彰式が行はれたのであります。御承知のやう

に前會長今泉博士は鐵鋼事業に對して非常に功績のあつた方であり、昨年六月末に御逝去になりましたので、昨年2月、俵博士に委員長を御願ひ致しまして、記念資金の募集を致しました所、短期間であつたにかゝらず非常に好成績で、十萬圓以上の金額が集まりましたので、其の内金十萬四千七百八十三圓を當協會に御寄附になりまして、之を鐵鋼の研究をなさる方の援助と申しますか、研究費に使ふと云ふことが目的になつて居ります。昭和18年に於て當資金を差上げる方が決まりました。之れは大阪帝國大學助教授の上村勝二氏の御申出になりました「鐵鋼中に於けるマンガン及硫黃の擴散に關する研究」に御援助することになつたのであります。此の點御報告申上げて置きます。

#### 4. 野田文庫

次は豫ねて御承知の野田文庫の件であります。最近は外國の書籍、及雜誌等が、殆んど入手不可能になつて参りましたが、野田文庫の創設以來、鐵鋼協會の役員方に於きまして、鐵鋼研究に最も必要なる書類を蒐めまして、其の数が現在422冊に達しました。昨年の12月に其の藏書目録を作りまして、皆様所へ差上げてございますが、段々之を御利用になる方も殖えて居ります。報告書にも載つて居ると存じますが、外國の書類は中々手に入らない時代でございますから、之の御利用を一層御願ひ致したいと存ずるのであります。

#### 5. 講演會

次は毎月の講演會の事であります。春秋二回に開きます講演會は、益々盛大になつて参つて居りますが、限られたる時間、限られたる日に於て、多數の方々御講演をなさる。随つて時間が短いと云ふやうなことで、充分に御話が願へませぬことを常に遺憾として居るのであります。それを幾分でも緩和致します爲に、毎月講演會を開いて居りまして、昨年に於きましては8回の講演會を開きましたが、毎回非常に盛會であります。今後も此の講演會は續行を致して参りたいと存じて居ります。

#### 6. 鐵鋼要覽

鐵鋼要覽に就きましては、此の時局に即應しまして是非早く出版致さなければならぬと常に役員は努力致して居るのであります。何分大部のため之れが取纏に意外の時日を要しまして遅延致しましたが目下印刷に附して居りますので、此の8月には出版が出来るかと考へて居ります。

#### 7. 關西支部

關西支部の狀況に就て一言申述べます御承知のやうに關西に鐵鋼業に御關係の方が多ので、先年支部を設けられたのであります。齋藤前會長並に支部長川上博士並に役員各位の御盡力により昨年は見學を3回、講演會を1回御開きになり又關西平爐技術懇談會を御開催になつて居りまして毎時盛會である事は御同慶に存じます。17年12月末には1349名の會員數でございまして、16年末に比べて89名増加して居ります。之を以ても鐵鋼業が總ての方面に活躍せられて居ることが分ると存じます。尙今時局の進展に連れまして當協會の會員數は益々増加されますが、交通の不便、多數會員方の集會の困難と云ふ問題が起りますので關西支部に倣ひ北海道、九州、及び滿洲に、支部を設置したいと云ふ御希望があるやうに伺つて居りまして、是は私も非常に欣ばしい現象だと存じて居るのであります。之を以て大體會務の報告を終ります。

#### 8. 評議員改選

次に評議員の半數改選を致したいと存じます。既に大多數の會員方は御投票になつて居るのであります。今日御投票下さる方が御座いますなれば此處に投票箱がございますので、御投票を御願ひ致します。御投票の方はあつしやいませぬか——就きましては開票の御立會に、甚だ御面倒でございますが、川上博士と金子博士に御願ひ致したいと思ひます。

監事の方は御二人あつしやるのであります。一度に改選になりますことは、協會として會務に不便でありますので、一人づゝ替つて戴いて居ります。随つて只今は水谷博士と吉川博士が監事になつて戴いて居るのであります。此の總會終了後、水谷博士の替りに渡邊三郎博士になつて戴くことに、先日の評議員會で決まりました。此の點御承知を御願ひ致したいと思ひます。

#### 9. 名譽會員推薦

次に2月20日の評議員會で、鐵鋼業に功績のある次の方々を名譽會員に推薦致したいと云ふことであります。工學博士伍堂卓雄さん、島岡亮太郎さん、杉政人さん、豊田貞次郎さん、此の四人の方を推薦致したのであります。是等の方々には私から其の御履歴を御披露する必要のない、社會的に有名な方であつしやいます。又鐵鋼に御關係の深い方であります。我々は是等の方を名譽會員に推薦して、鐵鋼界の爲に今後一層の御盡力を御願ひ致す事が出来るのを欣んでる次第であります。

#### 10. 除名

是は餘り宜い報告ではないのであります。米國人ゼームス・ユー・ラビットは本會の會員として又永く日本に於けるニッケル情報局の監督をしておつたのであります。評議員會に於て同人を除名致すことに決まりました。左様御承知を願ひます。

#### 11. 評議員改選投票

○投票立會者金子恭輔君 本日御指名を受けました金子であります。川上博士に御立會を願ひまして、投票數を調べました。ちよつと御報告申上げます。正會員の總數が2752名、随つて定款に依りまして、其の割の275名の御賛成があれば、それの方が當選されることになつて居ります。本日御出席の方が、正會員で111名でございます。本日御投票の方が1名でございます。それで書類に依る投票數が661票ございまして、此の1票を加へまして662票が改選評議員の投票でございます。此の中、協會の方から推薦申上げた方でない方と云ふのが12票ございました。此の12票を引きまして、一番最少限度の當票數が650票でございます。随つて275票を遙かに突破して居るのであります。結局正會員の方々會の方から御推舉申上げました所の改選の評議員が、全部御當選と云ふことになつて居ります。名前は一々申上げませぬけれども、正會員の各位には前以て御通知申上げてありますから、左様御諒承願ひたいと思ひます。

尙ほ序でに申上げますが、今日の色々な決議に對して、委任状を送附の方が676名でございます。是も資格者の2倍半位になつて居りますので、今日の御提議に對しても全部御承認を得られることになつて居ります。左様御承知を願ひます。

○松下會長 只今金子さんから御丁寧に御説明がございました。評議員の方は全部、會から御推薦申上げた方が御當選になりました。どうぞ今後とも協會の爲に宜しく御願ひ致します。

## 12. 昭和 17 年度收支及 18 年度豫算審議

次に 17 年度の收支決算、18 年度の收支豫算を御審議願ひたいのであります。

貸借対照表其の他を御手許に差上げてございますが、之を一々讀上げますと時間が掛りますし、別に御異議がなければ、御賛成を願ひたいと思ひますが、其の前に御審査になりました監事の御報告を御願ひ致したいと思ひます。

○吉川監事 昭和 17 年度の會計に付きまして、永谷、吉川兩監事に於きまして、詳細檢討監査致しました結果、會計は全く正確でありまして、財産の保管も充分適切であることを確認致しました。此の段御報告申し上げます。

○松下會長 如何でございますか。貸借対照表其の他何か御異議、御質問はございませぬか。

(「異議なし」の聲起る)

○松下會長 有難うございました。それでは此の儘御承認戴いたことに決定致します。

## 13. 鐵鋼業の趨勢

次に「鐵鋼業の趨勢」と書いてございますが、趨勢ではございませぬで、昨年概况と申しますか、之れに就きまして簡単に申上げたいと存じます。御承知のやうに總て數字を用ゆる事が出来無い事情になりましたので、申上げることは頗る氣の抜けたことと存じます。

大東亞戦争が始まりましてから、僅か 1 年ばかりの間であります。皇軍勇士の御奮戦に依り、又銑後國民の努力に依りまして、非常なる戦果を得られて居ります。我々は持たざる國と前には唱へて居つたのであります。只今では南洋其の他に於きまして、地上及地下に寶庫を得たのであります。併しながら只今は戦争中でありまして、即刻之れが利用は困難なる状態でございますが、併し我々は之の有効適切なる利用を致さなければならぬ。我が國民はさう云ふ責任を持つて居ると存ずるのであります。戦前、即ち昭和 16 年 12 月 8 日以前の我々の氣持は、何となく陰鬱でございましたが、只今我々は茲に赫々たる光明を認め希望に燃えておるのであります。即我等は東亞の指導者として益々奮勵努力し東亞十億の國民の福祉を増進すべき非常なる責任ある地位に立つたと存ずるのであります。

扱て只今申上げた是等の寶庫の一つである。鐵鑛石に關しましては御承知のやうに、戦前に於て我々は英米の巧妙なる政策に煩はされ乍ら輸入しつゝあつたのであります。戦局の進展と共に船腹の不足は又不得已現象でありますので、南方遠距離よりの鑛石輸入の困難に想到致し、政府に於かれましても成べく近距離にある鑛山開發と云ふことになつて参りました事は當然でありまして、昨年度に於きましては中支揚子江方面の鐵鑛山の開發或は増産に力を致されました。又北支方面に於きましては金嶺鐵山の開發、利口鐵山の増産があります。滿洲國に於ける各所鐵山及蒙疆に於ける龍煙鐵山の増産、朝鮮に於ける各所の鐵山、特に茂山の大規模なる増産計畫の實現に依りまして、南方即マライ、フリッピン、佛印等から参ります鐵鑛石に代へつゝあるのであります。昨年の上半期に於ては大體さう困難なく鐵鑛石が参つて居りましたが、下半期に於て段々窮屈化して参つて居ります。

併しながら銑鐵の生産は、御承知のやうに昭和 12~13 年頃から段々と上向きの状態でございます。と申すことは、其の間に銑鋼

一貫作業に依り製鋼原料を確保せんとする計畫が實現して來まして所々に熔鑛爐が殖えて参りました結果、銑鐵は段々と殖えて参りまして、17 年度に於きましての銑鐵生産量は近年に於ての最高量との事でありまして、併し此の生産量が今年にはどう云ふことになりましか、不明であります。我々鐵鋼關係の者は尙一層努力致して増産につとめねばならぬと存じます。

即昨 17 年度に於きまして、10 月に滿洲國本溪湖煤鐵公司の宮原熔鑛爐が火入をなし、又 12 月に日本製鐵會社の清津工場の熔鑛爐が作業を開始しました事は鐵鋼界の爲、洵に慶賀に堪えない次第であります。

昭和 17 年の末から 18 年の始に掛けまして、原料運搬に對する船腹不足の状況は益々顯著になりましたので内地の鑛石運搬を、海運から陸運に變へつゝあるであります。元來我が國に於ける多くの製鐵工場は、海を表玄関に致して居りまして、主に海から原料が入るやうに施設がされて居りますので、陸運轉換は裏門から鑛石、石炭が入る事になりますので設備變更、作業方式の更改等相當困難ではないかと思ふのであります。併しさう云ふことを言つて居られない時期でありますので、之に對して我々としては益々努力しなければならぬのだと存じて居ります。

如斯銑鐵製造に關しましては種々の問題が起りましたが此の間に、技術的方面の御研究としては、例へば茂山新鐵鑛の處理、滿洲の大孤山と鞍山の浮游選鑛の研究、不良鑛石を良好化する。或は今まで使用して居らぬ、或は使用しにくい鑛石を使用する等の種々なる御研究が發表され又は採用された事は斯界の爲慶賀すべき事でありまして。

次に鋼の製造に就て申上ます、元來我が國に於きまして鋼の製造方法は、何時も出る問題であります。熔鑛爐で銑鐵を製産しそれを直ちに鋼に製鍊する所謂一貫作業の方式が少なく主に内外國から屑鐵を集めて、それを熔し直して鋼にすると云ふ方法を採用して居る工場が多くべありました。爲昭和 15 年 9 月米國が日本に對しまして「道義的輸出禁止」なる微妙なる手段を取上げ同年 10 月鐵屑輸出の禁止を致しましたので鐵屑の使用が窮屈になりまして、元來鐵屑 60% 又は 70% に對して銑鐵が 40% 又は 30% の比率で溶解作業を致して居りましたのが、其の後は逆になつて参つたのでありますから、自然出鋼量に影響致して居るのであります。銑鐵の製産額の見込につきましては 17 年度が最近に於ける最高の様であると申しましたが、鋼に就きましては必ずしも同じやうな状態にはなつて居らぬやうでありまして、17 年度は其前年よりも多いとは申せないのではないかと存ずるのであります。併し出銑量が段々殖えて参れば、自然鋼も増産される事と存じて居ります。

尙此の米國の屑鐵の輸出禁止對策と致しまして、既に支那事變勃發以來政府に於ては銑鐵増産と平行して昭和 13 年企畫院に資源回收委員會が設けられました。續いて昭和 16 年 1 月に金屬類特別回收要綱が閣議で發表せられまして同年 4 月から 17 年に掛けまして、民間或は工場から出来るだけ鐵屑を回收することが續けられて居ります。又 17 年 4 月には金屬回收統制會社が出来ました。尙今年即 18 年の 3 月に、商工省に金屬回收本部が設置されまして、益々屑鐵回收の強化を圖られるやうであります。併し我が國に於ては、元來さう多量に鐵鋼を使用して居りませぬので、之の回收には或る限度があるのではないかと思ふのであります。

す。

此の間に、日本製鐵會社の輪西製鐵所、住友金屬工業會社の和歌山工場、日本鋼管の鶴見製鐵所等に於きまして、平爐が新しく操業せられまして、益々製鋼に寄與せられるやうになりましたことは是又鐵鋼界に取りて甚だ欣ばしいことだと存じて居ります。

鐵屑の蒐集は、只今申しましたやうに官民の御努力によりまして現在相當集まつておりますが、其質に於て使用困難なる物もありますので之れが解決の一途として各所でスポンジ原鐵、粒鐵等を製造する所が増加して参りましたのは是亦増産に寄與せらるゝ次第でありまして慶賀にたへませぬ。

次は特殊鋼に就て一言申述べます、特殊鋼は各種の兵器製造に缺くべからざるものでありまして、随つて戦時下其の需要が益々増加致して参りましたが、特に今次の大戦争に於て飛行機の活躍は目覺しきものでありまして、戦局進展に重大性を持つて居ることが痛感せられます。最近飛行機の増産に、各國とも躍起になつて居るのでありますので此れに要する特殊鋼の増産は、益々緊要になつて参つております。併し其の原料の取得が、先程申述べました平爐に對する屑鐵と同様に、良質のものが充分手に入らぬ。又其の形狀等に於ても、平爐の場合より尙困難なる事情にありますので之れが解決の手段としてスポンジ粒鐵を使用するのみならず、鐵鑽石を電氣爐で熔解した電氣銑鐵を使用するのでもあります。

從つて是等原料が特殊鋼製造に適するや否やに就て先きに神戸製鋼所に於ては粒鐵の配合を種々變更されまして、例へば0%から100%に至る粒鐵を使用する試験を行つて、其の化學變化、製鋼時間、製品の性質等の研究を、御發表になりましたことは、特殊鋼原料の研究に對しまして寄與する所多大なりと存ずるのであります。

次はニッケルを使用せざる各種特殊鋼製造の研究が益々盛んになつて参つた事であります。御承知のやうに殆んど各種の特殊鋼にはニッケルが缺くべからざる一つの成分であります。然るにニッケルは我が國に於ては多少出來ますけれども、殆んど出ないと申しても差支ない状態でありまして、其の爲ニッケルの使用量を限定せねばならぬので、どうしてもニッケルを加へなければならぬ特殊鋼以外は、他のものに代へる。所謂代用鋼を造る様になつて参りました。今までのニッケル・鋼の代りに、クロム・モリブデン鋼、クロム・マンガン鋼等を以て代用出来るや否や及其製造の研究が、特に盛んであつた事であります。是等の御研究の内に俵信次博士が、特殊鋼の一般的製造に付ての御検討をなされ、又會誌に御發表になりましたことは同方面に寄與される事多大なりと存じます。

それから特殊鋼の熔解法が進歩して参り一方重量品の製造が増加して参りました關係上、爐の容量が、漸次變つて参りまして、元は試験的と云ふ譯でもありませぬが、特殊鋼を御造りになる所は、餘り大きな爐を置いてみらつしやらぬ。1 噸、3 噸、5 噸位の爐を以て作業をせられた所が多かつたのであります。然るに最近は外國に於ても、又内地に於ても爐の容量が大きくなつて参りまして、20 噸、30 噸の爐も大なりとは申せぬ状態になりつゝあるのであります随つて將來は特殊鋼の製鍊は、屑を使用せずして寧ろ他の熔解爐即平爐又は轉爐と合併作業を致しまして、大量且つ急速に製造する方面に向ふのではないかと思ふのであります。

以上甚だ簡單でございしますが、昨年度に於ける我が國の銑鐵鋼の製造が、どう云ふ風な状況であつたかと云ふことを申し述べたのであります。先程も申上げましたやうに、數字に依りませぬ非常な雜駁なることで、此の點甚だ充分でないと思ひますが、御諒察を御願ひ致したいと思ひます。尙ほ海外の鐵鋼事業に關する事情は、我々には信用のある文獻は全く手に入りませぬので、今回は御報告を致さないことに致したいと存じます。甚だ簡單で御座いますが、之を以て終了致します。

○松下會長 是から引續いて表彰式を致したいと思ひます。表彰者の方は御着席を御願ひ致します。

#### (表 彰 式)

○松下會長 是で表彰式を終ります。之を以て通常總會を閉會致します。皆さん、有難うございました。

午後0時 35 分閉會

(備考) 今期總會後役員の異動ありたるもの

監事満期退任者	水谷 叔彦君
監事就任者	渡邊 三郎君

今回改選就任の評議員

鮎川 義介君	石川登喜治君	井上 順三君
井上長太夫君	井上匡四郎君	伊集院清彦君
伊能 泰治君	鵜瀨 新五君	宇留野四平君
海野 三朗君	大河内正敏君	大谷米太郎君
岡崎 泰祐君	景 山 齊君	梶本 金平君
金子 恭輔君	桂 弁 三君	木村 弘人君
齋藤 彌平君	佐々川 清君	澤村 宏君
島 安次郎君	島岡亮太郎君	白石元治郎君
城 正俊君	末兼 要君	杉 政人君
角野尙徳君	高瀬 孝次君	田所 芳秋君
堤 正義君	戸村 理順君	中原 津君
二階堂行健君	西村小次郎君	廣瀬 政次君
藤 井 寛君	藤田 俊三君	藤原 唯義君
本多光太郎君	的場 幸雄君	松本健次郎君
松原武三郎君	水谷 浩君	室井嘉治馬君
山 岡 武君	山田良之助君	山根 新次君
吉田 豊彦君	渡邊 義介君	

今期留任の評議員

淺田 長平君	足立 泰雄君	荒木 宏君
石田 四郎君	石原廣一郎君	石原米太郎君
井上 克巳君	井上禱之助君	今坂 義雄君
井村 竹市君	梅根常三郎君	大村 正篤君
小倉 正恒君	門野重九郎君	川上 義弘君
川崎舍恒三君	北村保太郎君	工藤 治人君
久保田權四郎君	久保田省三君	栗本勇之助君
黒田 泰造君	伍堂 卓雄君	齋藤 三三君
寒川 恒貞君	鹽澤 正一君	斯波孝四郎君
田尻 生五君	田中 清治君	田宮嘉右衛門君
高橋 正雄君	中井 勵作君	中田 義算君
中村 道方君	中山 悦治君	西山彌太郎君
長谷川熊彦君	畠山 藏六君	原 邦造君
日高 鏡一君	尾藤加勢士君	前川 清君
牧田 環君	松田 義一君	松本與三郎君
向笠 金吾君	村上武次郎君	山崎 章君

第 28 回通常總會

昭和 17 年度會務報告

自昭和 17 年 3 月 1 日  
至昭和 18 年 2 月 28 日

1. 集 會

通常總會	臨時總會	理事會	評議員會	編 輯		服部博士 記念資金 委員會	野田文庫 委員會	日鋼資金 委員會	故今泉博 士記念資 金委員會	講演大會 (春東京 秋東京)	月 例 講 演 會
				幹事會	委員會						
1	1	11	2	8	12	1	1	1	1	2	8
研 究 會											
電氣製鋼	鋼 鑄 (鑄物協會と聯合)				自動車用鐵鋼材 (機械學會と聯合)		耐火煉瓦 (耐火物協會と聯合)			製鐵製鋼用參考品	
殘務整理	委員總會	幹事會	第一 小委員會	第三 小委員會	幹事會	委員會	幹事會	委員會	入 場 者 第 1 日 480 第 2 日 813 第 3 日 965 (3 日間) 1 回		
2	1	0	1	6	2	1	1	7	895 21		

2. 會 員 員 動

	名譽會員	維持會員		贊助會員	正會員	准會員	計
		員 數	口 數				
入 會 者	+ 1	+ 3	(+ 4)	+ 3	+ 186	+ 826	+ 1,019
轉 格 者	+ 3			- 1	+ 135	- 137	-
退 會 者			- 1		- 27	- 44	- 72
死 亡 者				- 1	- 16	- 14	- 31
昭和 18 年 2 月 末 日 現 在	17	60	(159)	24	2,633	3,356	6,139
前 年 同 期 對 增 減	+ 4	+ 2	(+ 4)	+ 1	+ 278	+ 631	+ 916

横田 文吉君 吉岡 保貞君

富田三之助君 熊谷卯之助君 古賀喜衛門君  
小林 文助君 田村源太郎君 木名瀬 誠君  
前川 益以君 寺内 錦一君 濫澤 正雄君  
行村 行雄君 渡部 競一君 辻本壽貞夫君  
瀨尾 巧君

昭和 17 年度會務及び會計報告

自昭和 17 年 3 月 1 日  
至昭和 18 年 2 月 28 日

准會員 勅使河原勝雄君 田邊 健三君 西岡 豐純君  
吉田 友彦君 中野 理君 石原 悟君  
大谷 弘一君 小笠原 博君 菊地 基春君  
楠戸 次郎君 須藤 徳治君 井本 武男君  
古塚喜四郎君 島 好太郎君

備 考

(イ) 名譽會員

日本工業組合中央會々長 伍堂 卓雄君 (正會員より推薦)  
本溪湖煤鐵公司 理事長 島岡亮太郎君 (贊助會員より推薦)  
株式會社日本製鋼所社長 杉 政人君 (正會員より推薦)  
日本製鐵株式會社々長 豊田貞次郎君

(ロ) 維持會員新加入及異動

新 加 入	退 會	記 事
帝國滿鐵クロム株式會社 1 口		新加入増加
株式會社日本電解製鐵所 2 口		新加入増加
日産自動車株式會社 1 口		口數増加(合計 2 口となる)
日本鋼管株式會社 1 口	中山鋼業株式會社 1 口	合併に付き(日本鋼管 9 口となる)

(ハ) 贊助會員

新加入者 石塚幸次郎君 淺野總一郎君 淺野 良三君  
名譽會員へ轉格者 島岡亮太郎君  
死亡者 三好 重道君

(ニ) 死亡者

贊助會員 三好 重道君  
正會員 久次米三夫君 大屋 正吉君 山田 賀一君

3. 會誌發行及印刷物

- (イ) 本會々誌「鐵と鋼」自第 28 年第 3 號至第 29 年第 1 號
- (ロ) 研究報告(單獨又は會誌附録として配布)
  - 電氣製鋼研究會報告(IV)
  - 平爐熱勘定研究會報告(IV)
  - 製鋼用原料(平爐)研究會報告(II)
- (ハ) 講演大會講演大要 春秋 2 回
- (ニ) 會員名簿 1 回

4. 庶務事項

A. 第 27 回通常總會 昭和 17 年 4 月 4 日

- 1) 任期滿了役員, 評議員改選並に新增員評議員選舉
- 2) 昭和 16 年度會務報告
- 3) 昭和 16 年度收支決算報告
- 4) 昭和 17 年度收支豫算報告
- 5) 服部賞金贈呈式
- 6) 香村賞金(第 9 條適用)贈呈式
- 7) 俵賞金贈呈式

## 8) 渡邊賞牌並に渡邊賞金贈呈式

受領者 阿部七三郎君 入江仁壯君

塚本榮一君 本田登喜二君

## B. 理事會 (毎月第1水曜日)

- 1) 入退會者審査承認
- 2) 毎月會務並會計事項審査
- 3) 改選理事及常務委員の職務分擔次の如く決定

(理事)

會計 網谷 俊平君 講演 池田 正二君  
 編輯 石原 善雄君 庶務 志村 繁隆君  
 研究調査 藤村 哲之君

(常務委員)

講演 石田 四郎君 會計 鹽澤 正一君  
 研究 志村清次郎君 庶務 田中 清治君  
 編輯 俵 信次君

## 4) 編輯委員委囑更改

委員解囑 石川 薫君 (昭和 18-2-13)

委員委囑 藤田 忠男君 (昭和 18-2-13)

## 5) 鋼鑄物研究會委員委囑更改

委員解囑 (第 2, 3 小委員會) 阿部 芳雄君

委員委囑 (第 2, 3 小委員會) 久富 茂直君

- 6) 全日本科學技術團體聯合會の依頼に應じ大東亞建設課題中の戰爭遂行上必要なるものを選び通告す
- 7) 従來採り來りし抄録員の制を廢止し抄録を編輯委員の分擔とす
- 8) 故今泉博士記念資金委員 25 名の推薦案作製

## C 評議員會

## (第1回評議員會)

- 1) 故今泉博士記念資金 104,743 圓受託決定及び同記念資金取扱規則制定
- 2) 會費増額 (正會員年 10 圓, 准會員年 8 圓, 中途入退會者は 1ヶ月 90 錢の割を以て會費を徴収す) 案審議

## (第2回評議員會)

- 3) 評議員半數改選に就き推薦候補者選定
- 4) 評議員中 2 名の補缺員選舉
- 5) 監事 1 名選舉 (第 28 回通常總會終了後就任)
- 6) 昭和 17 年度收支決算審査
- 7) 昭和 18 年度收支豫算決定
- 8) 香村賞牌受領者選定

受領者 上野建二郎君

香村賞金 (第 9 條適用) 受領者選定

受領者 有山 恭藏君 梶原 林 治君  
 關 米 助君 原田 靜 夫君  
 藤田 守 太郎君

## 9) 俵賞受領者選定

學術上優秀論文 俵部 誠君

「電氣爐によるフェロマンガンの製造の研究」鐵と鋼第 28 年第 11 號

技術上優秀論文 大野田 剛君

「平爐に於ける珪石煉瓦の損傷原因と白珪石製珪石煉瓦の製造に関する研究」鐵と鋼第 28 年第 7 號

## 10) 渡邊賞牌受領者選定

受領者 黒川慶次郎君

渡邊賞金受領者選定

## 11) 名譽會員推薦

## D. 編輯委員會 (毎月第3水曜日)

- 1) 會誌每號原稿審査選定
- 2) 會誌每號翻譯及抄録分擔者決定
- 3) 會誌其の他刊行物の編輯
- 4) 講演大會研究會等の開催準備並に其の實施
- 5) 敵性國家の鐵鋼に関する專賣特許に関する件調査
- 6) 購入圖書の選定
- 7) 鐵鋼要覽の編纂

## E. 服部博士記念資金委員會 (昭和 18 年 2 月 20 日)

## 1) 第 13 回服部賞受領者選定

賞牌受領者 田澤敏次郎君

賞金受領者 岩屋 稜彦君 佐藤 昇君

穂坂徳四郎君 宮下格之助君

八木貞之助君

- 2) 昭和 17 年度服部博士記念資金收支決算審査
- 3) 昭和 18 年度服部博士記念資金收支豫算決定

## F. 野田文庫委員會 (昭和 18 年 2 月 20 日)

- 1) 講入圖書の選定
- 2) 圖書目錄の編纂
- 3) 野田文庫圖書の閲覧
- 4) 昭和 17 年度收支決算の審査
- 5) 昭和 18 年度收支豫算の決定

## G. 日本鋼管會社寄贈資金委員會 (昭和 18 年 2 月 20 日)

- 1) 昭和 18 年度より當分の間月例講演會費用豫算年額 2,000 圓を本資金利子の内より補助する件承認
- 2) 昭和 17 年度收支決算の審査
- 3) 昭和 18 年度收支豫算の決定

## H. 故今泉博士記念資金委員會 (昭和 18 年 2 月 20 日)

- 1) 昭和 18 年度に於ける研究援助の爲め資金贈呈者決定  
鐵鋼中に於けるマンガンの及硫酸の擴散に関する研究  
大阪帝國大學助教授 上 村 勝 二君
- 2) 昭和 17 年度收支決算の審査
- 3) 昭和 18 年度收支豫算の決定

## I. 官廳事項

- 1) 文部大臣 (東京府知事經由) 宛昭和 16 年度事業狀況報告及昭和 17 年度收支豫算報告書提出
- 2) 資産の總額變更登記 (昭和 17 年 4 月 12 日)
- 3) 會誌「鐵と鋼」編輯人及發行人變更届  
(昭和 17 年 9 月 11 日届出)  
(昭和 17 年 10 月 19 日認可)  
舊編輯兼發行人 日下宗基 新編輯兼發行人 松野 縁
- 4) 定款第 35 條改正 (會費の増額の件上申)  
(昭和 17 年 12 月 1 日上申)  
(昭和 18 年 1 月 25 日認可)
- 5) 企業許可令第 7 條に基く許可申請 (昭和 17 年 8 月 19 日)
- 6) 商工省宛會誌「鐵と鋼」を官廳外刷印刷物に指定相成度出願 (昭和 17 年 7 月 22 日出願)  
(昭和 17 年 10 月 12 日指定)
- 7) 日本鐵鋼協會及日本耐火物協會兩會長連名を以てノツズル・ストツパー・スリーブ取鋼煉瓦に関する種別、寸法並に品質規格案上申

**J. 事務員異動**

採用年月日	解職(備)年月日	氏名	職名
17-3-9	17-8-8	長谷川津奈子	(編輯, 校正)
17-3-25	17-7-28	安田 秀雄	(給仕)
(16-9-10)	17-5-25	石丸 照明	(編輯, 技生) 卒業就職
17-5-1	—	北口 一郎	(編輯, 技生)
(11-8-1)	17-8-17	日下 宗基	(編輯主任)
(14-8-25)	17-8-15	落合みゑ子	(庶務, タイピスト)
(16-9-3)	17-9-8	山本 榮	(編輯, 校正)
17-8-4	—	松野 緑	(編輯主任)
17-7-31	—	宮路 吉夫	(庶務)
17-8-15	18-2-28	堀田 綾子	(庶務, タイピスト)
17-9-30	18-2-23	西村 綾子	(編輯, 校正)
17-9-30	18-2-6	吉田 重子	(編輯, 校正)
17-9-21	—	千葉 いと子	(編輯, 技生)
17-10-8	—	江澤 壽子	(編輯, 校正)
(大正 14-8-11)	17-11-4	村松 橘太郎	(研究調査主任)
17-11-7	18-1-15	三浦 義重	(研究調査主任心得)
18-2-5	—	平山 美代	(庶務, タイピスト)
18-2-19	—	池田 義臣	(要覽)
18-2-19	—	杉村 陽太郎	(要覽)
18-2-19	—	西澤 亮吉	(研究, 調査, 技生)
18-2-21	—	平山 富雄	(編輯, 校正)

**K. 日本鐵鋼協會關西支部**

- 1) 第 5 回總會 (18-2-26) 1 回 出席者 50 名  
議事  
イ、昭和 17 年度事業報告  
ロ、昭和 17 年度決算報告  
ハ、昭和 18 年度豫算決定  
ニ、役員改選 (商議員會推薦の通り當選)
- 2) 商議員會 4 回  
イ、第 17 回 17-1-26 第 18 回 17-7-15  
條 19 回 17-10-27 第 20 回 18-2-4  
ロ、商議員 30 名改選 (推薦の通り當選す)  
荒川 直三君 甲斐 彌君 勝間 春三君  
川上 義弘君 川端 駿吾君 木村 弘人君  
絹川武良司君 楠瀬 四郎君 栗本 順三君  
小藪 重行君 佐久間友二君 齋藤 大吉君  
澤村 宏君 多賀谷正義君 高橋 清君  
田中 勘七君 西山彌太郎君 藤井 寛君  
堀田 美之君 梶田 定司君 樹田小太郎君  
松原 正良君 宮崎 松郎君 室井嘉治馬君  
森崎 晟君 山田 貞雄君 横山 武人君  
吉川 平喜君 吉弘 良夫君 米樹健次郎君
- 3) 例會 5 回  
第 16 回例會 17-5-16 見學會  
第 17 回例會 17-7-15 講演會

- 第 17 回例會 18-9-26 見學會
- 第 19 回例會 17-11-21 見學會
- 第 20 回例會 18-2-26 講演會

**I. 講演會**

回数	年月日	演題	講演者
第 17 回例會	17-7-15	1. 熔銑を原料として低磷銑を製造する方法に関する一考察 2. 含ニッケル・クロム鐵銑を原料とせる製鐵に就て	澤村 宏君 松川 達夫君
第 20 回例會	18-2-26	1. 鋼の削削限に及ぼす種々の因子に就て 2. ピアノ線の製造に就て	佐賀 二郎君 川上 義弘君

**ロ. 見學**

回数	年月日	見學場所	参加人員
第 16 回例會	17-5-16	1. 日本製鐵株式會社 廣畑製鐵所 2. 山陽製鋼株式會社 飾磨工場	
第 18 回例會	17-9-26	1. 京都帝國大學工學研究所	
第 19 回例會	17-11-21	1. 株式會社尼崎製鋼所 2. 日亞製鋼株式會社	

4) 關西平爐技術懇談會

第 2 回 17-1-30 於大阪ビル

第 3 回 17-3-27 於神戸商工會議所

5) 昭和 17 年 12 月末に於ける支部會員數

名譽會員 1 名 贊助會員 6 名 維持會員 17 名  
正會員 592 名 准會員 733 名 合計 1349 名  
昭和 16 年 12 月末 1,260 名に對し 89 名増加

**5. 講演大會**

第 27 回講演大會 昭和 17 年 4 月東京に於て  
出席者 954 名 講演數 67  
第 28 回講演大會 昭和 17 年 10 月東京に於て  
出席者 786 名 講演數 51

**6. 月例講演會 (次頁参照)**

**8. 表彰 (昭和 17 年 4 月 4 日第 27 回通常總會に於て贈呈)**

**A. 第 12 回服部賞贈呈**

賞牌受領者 なし

賞金受領者

北海道帝國大學教授 理學博士 理學士 柴田 善一君  
三菱鑛業株式會社 參事 工學士 廣瀬 政次君  
株式會社昭和製鋼所 研究所 工學士 垣内富士雄君  
日本製鐵株式會社 八幡製鐵所 吉田清三郎君  
日本鋼管株式會社 參事 工學士 桑田 賢二君  
大阪陸軍造兵廠 吉田松次郎君

**B. 第 10 回香村賞贈呈**

賞牌受領者 なし

賞金 (第 9 條適用) 受領者

東京帝國大學教授 工學博士 工學士 宗宮 尙行君  
株式會社昭和製鋼所 研究所 工學士 後藤 有一君

**C. 第 8 回俵賞金贈呈**

回数	年月日	演 題	講 演 者	講演時間	聴講者 員 数
第一回	17-5-29	一、南方地域の鐵鑛資源に就て 一、映畫 海鷲外ニース數卷	商工省地質調査所第二部長 地質調査所技師 理學士 石井 清彦君	1時間—10分 0—45分	115
第二回	17-6-10	一、獨逸に於ける金屬材料最近の狀況 一、映畫 ニューズ 數卷	海軍航空技術廠 海軍技師 大谷文太郎君	1時間—30分 0—50分	175
第三回	17-7-3	一、製鋼工場の作業研究に就て 一、映畫 ニューズ 數卷	大同製鋼株式會社研究部次長 理學博士 清水 定吉君	1時間—30分 0—40分	152
第四回	17-9-4	一、滿洲産貧滿備鐵の利用に就て 一、映畫 ニューズ 數卷	株式會社昭和製鋼所研究所 工學士 藤田守太郎君	1時間—50分 0—30分	42
第五回	17-11-27	一、製鐵所に於けるガスの利用法に就て 一、日本鋼管株式會社川崎ラモント汽罐 に就て	日本鋼管株式會社技師 工學士 伊澤 惣作君 川崎重工業株式會社艦船工場製罐部 技師 工學士 川畑 球陽君	1時間—15分 1時間—0分	45
第六回	18-1-30	一、「ピアノ」線材製造に就て 一、映畫 蘭印風景外數卷	株式會社神戸製鋼所取締役 研究部長兼特殊鋼部長 工學博士 工學士 川上 義弘君	2時間—10分 1時間—15分	278
第七回	18-2-26	一、貧ニッケル鐵鑛より高ニッケル鐵製 造の研究 一、映畫 勝利への生産外數卷	株式會社昭和製鋼所研究所 工學士 藤田守太郎君	1時間—10分 0—50分	125
第八回	18-3-6	一、アルミニウム及アルミニウム合金と 瓦斯 一、鋼及アルミロウム中の水素分析方法 一、熔融せる鐵の水素吸収並に鋼塊内の 水素氣泡生成に就て 一、鋼と水素の諸關係に就て 一、鋼中の瓦斯に就て 一、白點の理論	東京帝國大學教授 工學博士 三島 徳七君 東京帝國大學教授 工學博士 宗宮 尙行君 日本特殊鋼株式會社技師 工學士 矢島 忠和君 住友金屬工業株式會社製鋼所技師 理學士 三井 三郎君 株式會社日本製鋼所室蘭製作所技術研究 所 工學博士 小林佐三郎君 工學博士 本多光太郎君	1時間—0分 1時間—0分 1時間—0分 1時間—0分 1時間—0分 1時間—0分	543

## 7. 研究調査事項

研究部會回次	部 門 別	題 名	開催年月日	開催地
日本鐵鋼協會聯合部會 日本耐火物協會	座 談 會	第8回トリベ用耐火物の規格統一研究會	昭和17-3-2	東京
同	上	第9回 同 上	昭和17-5-2	東京
同	上	第10回 同 上	昭和17-6-20	東京
同	上	第11回 同 上	昭和17-8-8	東京
同	上	第12回 同 上	昭和17-9-10	東京
第27回研究部會	第2回鑄物部會	第2回委員總會	昭和17-10-16	東京
日本鐵鋼協會、日本機械 學會材料部門委員會聯合	座 談 會	自動車用鐵鋼材研究會	昭和18-2-23	東京

技術上優秀論文 吳海軍工廠製鋼實驗部海軍技師  
工學士 堀田 秀次君  
學術上優秀論文 住友金屬工業株式會社製鋼所技師  
理學士 菅野 猛君

## D. 第4回渡邊賞贈呈

賞牌受領者

株式會社神戸製鋼所取締役研究部長兼特殊鋼部長  
陸軍中將 工學博士 工學士 川上 義弘君

## 賞金受領者

早稻田大學助教授 工學士 前田 六郎君  
大阪陸軍造兵廠陸軍技師 中務信次郎君  
東北帝國大學教授金屬材料研究所員  
工學博士 工學士 森岡 進君  
日本特殊鋼株式會社技師 理學士 森脇 和男君

## 9. 圖 書

寄贈圖書受付總數 和書 19册



貸 借 對 照 表

第 (1) 號

(昭和 18 年 2 月 末 日)

勘 定 科 目 (資 産)	内 譯	合 計	勘 定 科 目 (負 債)	内 譯	合 計
(什 器)		3,453.76	(未 收 會 費 見 返 金)		2,131.00
(電 話)		800.00			
(圖 書)		1,444.89	小 計		2,131.00
(敷 金)		855.00	(資 金)		815,310.35
(保 證 金 代 用 有 價 證 券)		1,554.84	前 年 度 ヨ リ 繰 越 金	710,485.27	
會 誌 發 行 保 證 金	907.00		本 年 度 增 加 額	104,825.08	
約 束 郵 便 保 證 金	647.84		別 口 資 金 ￥ 98,692.90		
(分 讓 印 刷 物)		250.00	事 業 資 金 ￥ 6,132.18		
以上六口 固定資産					
¥ 8,358.49					
(有 價 證 券)		12,839.50	昭 和 十 八 年 二 月 末 日 譯		
(信 託 金)		61,683.29	資 金 内 譯		
(銀 行 預 金)		15,906.85	鐵 鋼 資 料 編 纂 資 金	8,579.99	
定 期 預 金	2,808.12		事 務 員 退 職 給 與 基 金	2,649.28	
特 別 當 座 預 金	13,098.73		會 館 建 設 基 金	5,335.14	
(振 替 貯 金 (口 座 基 金 ヲ 含 ム))		25,118.92	服 部 博 士 記 念 資 金	20,954.45	
(現 金)		134.57	香 村 博 士 寄 贈 資 金	27,625.59	
以上五口 流動資産			俵 博 士 記 念 資 金	5,133.32	
¥ 115,683.3			河 村 博 士 寄 贈 資 金	6,728.40	
(別 口 野 田 文 庫 資 産 什 器)		3,360.50	野 田 文 庫 資 金	139,038.08	
(同 圖 書)		10,428.69	日 本 鋼 管 會 社 寄 贈 資 金	314,338.06	
(別 口 資 金 見 返 有 價 證 券)		293,000.00	日 本 特 殊 鋼 會 社 同	55,935.44	
服 部 博 士 記 念 資 金	20,000.00		今 泉 博 士 記 念 資 金	104,950.98	
香 村 博 士 寄 贈 資 金	20,000.00				
俵 博 士 記 念 資 金	5,000.00		別 口 資 金 計	691,268.73	
日 本 鋼 管 會 社 寄 贈 資 金	198,070.00		事 業 資 金	124,041.62	
今 泉 博 士 記 念 資 金	49,930.00				
(別 口 資 金 見 返 信 託 金)		312,063.54			
河 村 博 士 寄 贈 資 金	6,718.40				
野 田 文 庫 資 金	100,000.00				
日 本 鋼 管 會 社 寄 贈 資 金	100,000.00				
日 本 特 殊 鋼 會 社 同	50,000.00				
今 泉 博 士 記 念 資 金	50,000.00				
會 館 建 設 基 金	5,335.10				
(別 口 資 金 見 返 銀 行 預 金)		71,438.18			
服 部 博 士 記 念 資 金	954.45				
香 村 博 士 寄 贈 資 金	7,625.59				
俵 博 士 記 念 資 金	133.32				
鐵 鋼 資 料 編 纂 資 金	8,579.99				
野 田 文 庫 資 金	24,271.07				
日 本 鋼 管 會 社 寄 贈 資 金	16,268.06				
日 本 特 殊 鋼 會 社 同	5,935.44				
事 務 員 退 職 給 與 基 金	2,649.28				
今 泉 博 士 記 念 資 金	5,020.98				
(別 口 野 田 文 庫 見 返 振 替 貯 金 (口 座 基 金 ヲ 含 ム))		629.52			
(同 假 拂 金)		348.30			
以上七口 別 口 資 金 見 返 資 産					
¥ 691,268.73					
(未 收 會 費)		2,131.00			
		817,441.35			817,441.35

## 昭 和 17 年 度 收 支 決 算

第 (2) 號

自 昭 和 17 年 3 月 1 日  
至 昭 和 18 年 2 月 末 日

支 出	内 譯	合 計	收 入	内 譯	合 計
(會 誌 印 刷 費)		30,570.44	(維 持 會 員 會 費)		15,900.00
(版 類 製 作 費)		4,877.43	(贊 助 會 員 會 費)		900.00
(別 刷 印 刷 費)		4,306.28	(正 會 員 會 費)		23,454.00
(原 稿 料)		1,432.05	(准 會 員 會 費)		23,334.14
(約 束 郵 便 料)		2,193.15	(入 會 金)		1,166.00
(俸 給 及 手 當)		17,108.54	(印 刷 物 分 讓 料)		3,655.97
(借 室 料)		3,420.00	(廣 告 料)		14,481.23
(會 合 費)		1,176.30	(公 社 債 利 子)		638.28
(學 會 及 協 會 費)		306.00	(振 替 貯 金 利 子)		543.34
(講 演 會 費)		1,909.67	(銀 行 預 金 利 子)		217.89
(事 務 費)		9,448.19	(信 託 預 金 利 子)		2,278.66
(關 西 支 部 費)		1,080.00	(鐵 鋼 試 料 分 讓 料)		19,403.11
(圖 書 費)		5.30	(大 會 參 加 費)		3,496.89
(什 器 費)		71.20	(鐵 鋼 資 料 編 纂 資 金 繰 入)		2,000.00
(大 會 費)		11,087.44	(雜 收 入)		204.82
(鐵 鋼 試 料 買 入 代 金)		14,206.00			
(事 務 員 退 職 給 與 基 金)		1,000.00			
(約 束 郵 便 擔 保 金 追 納)		280.00			
(豫 備 金)		1,420.66			
小 計		105,898.65			
收入差引收入超過額		5,775.68			
		111,674.33			111,674.33
			本年度資金增額照合表		
			收 入 增 額		5,775.68
			(上 記 ノ 通 リ)		
			(差引)		
			支出中資産 = 還元額		(+) 356.50
			約 束 郵 便 擔 保 金	(+) 280.00	
			圖 書 費	(+) 5.30	
			什 器 費	(+) 71.20	
			計	356.50	
			合計 本年度資産増額		6,132.18

昭和 17 年 度  
別 口 資 金 收 支 決 算 表

第 (3) 號

自 昭 和 17 年 3 月 1 日  
至 昭 和 18 年 2 月 末 日

口 別	支 出	金 額	收 入	金 額	備 考	
(1) 鐵編纂 鋼資料	(事務費)	180.00	(銀行預金利子)	-247.11		
	(雜給)	757.00				
	(印刷費)	3,754.80	小 計	247.11		
	(雜費)	23.97	前年度ヨリ繰越金	15,048.65		
	(普通會計へ繰入金)	2,000.00				
	小 計	6,715.77				
	收支差引次年度へ繰越高	8,579.99				
		15,295.76		15,295.76		
(2) 事務員 退職金	(退職手當金)	2,500.00	(普通會計ヨリ繰入金)	1,000.00		
			(銀行預金利子)	77.91		
	小 計	2,500.00	小 計	1,077.91		
	次年度へ繰越高	2,649.28	前年度ヨリ繰越金	4,071.37		
		5,149.28		5,149.28		
(3) 會館 建金	次年度へ繰越高	5,335.14	(信託收益)	197.08		
			小 計	197.08		
		5,335.14	前年度より繰越高	5,138.06		
				5,335.14		
(4) 服部 博士 記念 資金	(賞金)	600.00	(公債利子)	1,000.00		
	(賞牌製作費)	16.00	(銀行預金利子)	10.68		
	(同副賞金)	0	小 計	1,010.68		
	(受賞者招待費)	30.00	前年度ヨリ繰越金	728.01		
	(賞狀用紙及揮毫料)	17.24				
	(信託手数料)	10.00				
	(印刷費)	96.70				
	(雜費)	14.30				
	小 計	784.24				
	收支差引次年度へ繰越高	954.45				
		1,738.69		1,738.69		
(5) 香村 博士 寄贈 資金	(賞金)	200.00	(公債利子)	1,000.00		
	(賞牌用豫備箱代)	16.00	(銀行預金利子)	126.90		
	(印刷費)	41.40	小 計	1,129.90		
	(受賞者招待費)	10.00	前年度ヨリ繰越金	6,775.63		
	(賞狀揮毫費)	6.04				
	(雜費)	3.50				
	小 計	276.94				
	收支差引次年度へ繰越高	7,625.59				
		7,902.53		7,902.53		
(6) 俵 博士 記念 資金	(賞金)	200.00	(債券利子)	215.00		
	(賞狀用紙及揮毫料)	5.66	(銀行預金利子)	1.06		
	(受賞者招待費)	10.00	小 計	216.06		
	(印刷費)	31.40	前年度ヨリ繰越金	172.15		
	(雜費)	7.83				
	小 計	254.89				
	收支差引次年度へ繰越高	133.32				
		388.21		388.21		
(7) 河 村 博 士 資 金	次年度へ繰越高	1,728.40	(信託收益)	248.53		
			小 計	248.53		
		1,728.40	前年度ヨリ繰越高	1,479.87		
			1,728.40			
(8) 野 田 文 庫 資 金	(圖書費)	89.20	(信託收益)	3,800.00	支出中資産=還元額 ¥ 642.50 内譯 圖書費 ¥ 89.20 什器費 ¥ 205.00 假拂金 ¥ 348.30	
	(圖書費假拂金)	348.30	(同臨時ボーナス)	500.00		
	(什器費)	205.00	(定期預金利子)	464.16		
	(印刷費)	847.50	(銀行預金利子)	152.65		
	(雜費)	467.61	(振替貯金利子)	14.73		
		小 計	1,957.61	(雜收入)		1.12
				小 計		4,932.66
		收支差引次年度へ繰越高	24,900.59	前年度ヨリ繰越金		21,925.54
		26,858.20		26,858.20		

口 別	支 出	金 額	收 入	金 額	備 考
(9) 日本 鋼管 株式 會社 贈資 株式 金	(研 究 會 費)	12,843.28	(公 債 利 子)	3,500.00	
	(俸 給 手 當)	2,586.03	(社 債 利 子)	4,200.00	
	(通 信 費)	498.24	(信 託 收 益)	3,800.00	
	(雜 費)	455.95	(銀 行 預 金 利 子)	363.27	
	小 計	16,883.50	小 計	11,863.27	
	收支差引次年度へ繰越高	16,268.06	前年度ヨリ繰越金	20,788.29	
		32,651.56		32,651.56	
(10) 甲 日本 會社 特種 鋼管 株式 會社 贈資 株式 金	(貨 牌 製 作 費)	30.00	(信 託 收 益)	760.00	
	(同 副 貨 金)	300'00	(銀 行 預 金 利 子)	21.86	
	(貨 受 賞 者 招 待 費)	800.00	小 計	781.86	
	(貨 狀 用 紙 及 揮 毫 料)	45.00	前年度ヨリ繰越金	1,278.46	
	(印 刷 費)	18.28			
	(雜 費)	116.28			
	小 計	1,324.55			
	收支差引次年度へ繰越高	735'77			
		2,060.32		2,060.32	
(10)乙 日株 本式 會社 特種 鋼管 株式 會社 贈資 株式 金	次年度へ繰越高	5,199.67	(信 託 收 益)	1,140.00	
			(銀 行 利 子)	63.76	
			(甲 資 金 ヨリ 戻 入 金)	457.10	
			小 計	1,660.86	
			前年度ヨリ繰越金	3,538.81	
		5,199.67		5,199.67	
(11) 今泉 博士 紀念 資金	(通 信 費)	266.35	(寄 附 金)	104,783.00	
	(印 刷 費)	342.80	(特 別 當 座 預 金 利 子)	467.30	
	(信 託 金)	50,000.00	(信 託 收 益 金)	249.16	
	(社 債 購 入 費)	49,930.00	(社 債 利 子)	322.50	
	(社 債 經 過 利 子)	216.41			
	(振 替 貯 金 拂 込 料)	23.12			
	(雜 費)	22.30			
	小 計	100,800.98			
收支差引次年度へ繰越高	5,020.98				
		105,821.96		105,821.96	

備考 支出中經過利子 ¥ 216.41 ハ利子收入ノ際回收スルモノ

財 産 目 録

第 (4) 號

昭和 18 年 2 月 末 日 現 在

摘 要	昭 和 十 七 年 二 月 末 日 現 在	昭 和 十 八 年 二 月 末 日 現 在	差 引 增 (+) 減 (-)	備 考
資 産 之 部				
(什 器)	3,382.56	3,453.76	(+) 71.20	
(電 話)	800.00	800.00		
(圖 書)	1,439.59	1,444.89	(+) 5.30	
(敷 金)	855.00	855.00		
(保 證 金 代 用 有 價 證 券)	1,274.84	1,554.84	(+) 280.00	
甲 號 五 分 利 壹 千 圓 會 社 發 行 保 證 金	907.00	907.00		
公 債 額 面 壹 百 五 拾 圓 約 束 郵 便 同	137.84	137.84		
分 號 同 壹 百 五 拾 圓 約 束 郵 便 同	230.00	510.00	(+) 280.00	
(現 金 保 證 金)	250.00	250.00		
(分 讓 印 刷 物)	250.00	250.00		
(有 價 證 券)	12,839.50	12,839.50		
東 京 電 燈 社 債 額 面 壹 千 圓	1,000.00	1,000.00		
東 洋 拓 殖 債 券 同 壹 萬 壹 千 圓	10,890.00	10,890.00		
帝 國 五 分 利 公 債 同 壹 千 圓	949.50	949.50		
(信 託 預 金)	59,404.63	61,683.29	(+) 2,278.66	
三 菱 信 託 株 式 會 社	33,982.88	35,234.46	(+) 1,301.58	
三 井 信 託 株 式 會 社	25,471.75	26,448.83	(+) 977.08	
(銀 行 預 金)	12,105.35	15,906.85	(+) 3,801.50	
住 友 銀 行 東 京 支 店 定 期 預 金	717.487	2,808.12	(+) 90.64	
三 菱 銀 行 特 別 當 座 預 金	9,387.8	13,098.73	(+) 3,710.86	
(振 替 貯 金 (口 座 基 金 ヲ 含 ム))	25,161.82	25,118.92	(-) 42.90	
(現 金)	396.15	134.57	(-) 261.58	
(未 收 會 費)	1,837.10	2,131.00	(-) 293.90	
小 計	119,746.54	126,172.62	(+) 6,426.08	
別 口 見 返 資 金 (別 口 財 産 目 録 通)	592,575.83	691,268.73	(+) 98,692.90	
合 計	712,322.37	817,441.35	(+) 105,118.98	
負 債 之 部				
(未 收 會 費)	2,837.10	2,131.00	(+) 293.90	
合 計	1,837.10	2,131.00	(+) 293.90	
差 引 財 産 現 在 高	710,485.27	815,310.35	(+) 104,825.08	

別 口 財 産 目 録

第 (5) 號

(昭和 18 年 2 月 末 日 現 在)

摘 要	昭和 17 年 2 月 末 日 現 在	昭和 18 年 2 月 末 日 現 在	差 引 増 (+) 減 (-)	備 考
(1) 鐵 鋼 資 料 編 纂 資 金 三 菱 銀 行 當 座 預 金	15,048.65 15,048.65	8,579.99 8,579.99	(-) 6,468.66 (-) 6,468.66	
(2) 事 務 員 退 職 給 與 基 金 三 菱 銀 行 特 別 當 座 預 金	4,071.37 4,071.37	2,649.28 2,649.28	(-) 1,422.09 (-) 1,422.09	
(3) 會 館 建 設 基 金 三 菱 信 託 會 社 信 託 金	5,138.06 5,138.06	5,335.14 5,335.14	(+) 197.08 (+) 197.08	
(4) 服 部 博 士 記 念 資 金 帝 國 五 分 利 公 債 額 面 二 萬 圓 三 菱 銀 行 特 別 當 座 預 金	20,728.01 20,000.00 728.01	20,954.45 20,000.00 954.45	(+) 226.44 0 (+) 226.44	
(5) 香 村 博 士 寄 贈 資 金 帝 國 五 分 利 公 債 額 面 五 千 圓 (甲) 同 壹 萬 五 千 圓 (乙) 三 菱 銀 行 特 別 當 座 預 金 (甲) 同 (乙)	26,775.63 5,000.00 15,000.00 605.66 6,169.97	27,625.59 5,000.00 15,000.00 7,625.59	(+) 849.96 0 0 (+) 849.96	
(6) 俵 博 士 記 念 資 金 東 洋 拓 殖 債 券 額 面 五 千 圓 三 菱 銀 行 特 別 當 座 預 金	5,172.15 5,000.00 172.15	5,133.32 5,000.00 133.32	(-) 38.83 0 (-) 38.83	
(7) 河 村 博 士 寄 贈 資 金 三 菱 信 託 會 社 信 託 金	6,479.87 6,479.87	6,728.40 6,728.40	(+) 248.53 (+) 248.53	
(8) 野 田 文 庫 資 金 三 菱 信 託 會 社 信 託 金 三 井 信 託 會 社 信 託 金 住 友 信 託 會 社 信 託 金 三 菱 銀 行 定 期 預 金 三 井 銀 行 丸 內 第 二 支 店 定 期 預 金 住 友 銀 行 東 京 支 店 定 期 預 金 三 菱 銀 行 特 別 當 座 預 金 三 井 銀 行 丸 內 第 二 支 店 特 別 當 座 預 金 住 友 銀 行 東 京 支 店 特 別 當 座 預 金 振 替 貯 金 (口 座 基 金 ヲ 含 ム) 圖 書  什 器  假 拂 金	135,486.53 35,000.00 35,000.00 30,000.00 4,638.35 4,638.35 4,638.35 3,260.42 2,333.53 1,801.75 614.79 10,339.49  3,221.50	139,038.08 35,000.00 35,000.00 30,000.00 4,793.07 4,793.07 4,793.07 9,891.86 0 629.52 1,428.69  3,360.50	(+) 3,551.55 0 0 0 (+) 154.72 (+) 154.72 (+) 154.72 (+) 6,631.44 (-) 2,333.53 (-) 1,801.75 (+) 14.73 (+) 89.20  (+) 139.00	事務簡素化ノ タメ三菱銀行 = 轉預ス  本年度購入 (+) ¥ 205.00 供出消却 (-) ¥ 66.00 差引本年度増加 ¥ 139.00
(9) 日 本 鋼 管 會 社 寄 贈 資 金 三 井 信 託 會 社 信 託 金 三 分 丸 號 公 債 額 面 金 拾 萬 圓 政 府 保 證 興 業 債 券 同 金 拾 萬 圓 三 菱 銀 行 特 別 當 座 預 金 三 井 銀 行 特 別 當 座 預 金 住 友 銀 行 特 別 當 座 預 金	318,858.29 100,000.00 98,050.00 100,020.00 10,934.64 8,016.89 1,836.76	314,338.06 100,000.00 98,050.00 100,020.00 16,268.00 0 0	(-) 4,520.23 0 0 0 (-) 5,333.42 (-) 8,016.89 (-) 1,836.76	事務簡素化ノ タメ三菱銀行 = 轉預ス
(10) 日 本 特 殊 鋼 會 社 寄 贈 資 金 住 友 信 託 會 社 信 託 金 (甲) 同 (乙) 住 友 銀 行 東 京 支 店 特 別 當 座 預 金 (甲) 同 (乙)	54,817.27 20,000.00 30,000.00 1,278.46 3,538.81	55,935.44 20,000.00 30,000.00 735.77 5,199.67	(+) 1,118.17 0 0 (-) 542.69 (+) 1,660.86	
(11) 今 泉 博 士 記 念 資 金 三 菱 信 託 會 社 信 託 金 三 井 信 託 會 社 信 託 金 住 友 信 託 會 社 信 託 金 三 菱 鐵 業 株 式 會 社 社 債 日 本 發 送 電 株 式 會 社 社 債 南 滿 洲 鐵 道 株 式 會 社 社 債 東 洋 拓 殖 株 式 會 社 社 債 三 菱 銀 行 特 別 當 座 預 金		104,950.98 16,700.00 16,700.00 16,600.00 14,985.00 9,920.00 15,015.00 10,010.00 5,020.98	(+) 104,950.98 (+) 16,700.00 (+) 16,700.00 (+) 16,600.00 (+) 14,985.00 (+) 9,920.00 (+) 15,015.00 (+) 10,010.00 (+) 5,020.98	
合 計	592,575.83	691,268.73	(+) 98,692.90	

昭和十八年度經常收支豫算

收		入	支		出
科	目	金額	科	目	金額
維持	會社	17,500.00	會版	別原	47,400.00
正准	入印	600.00	誌類	刷東	5,500.00
費	廣公	26,500.00	刷	給	4,500.00
振	振銀	25,500.00	製印	稿郵	2,500.00
信	信鐵	1,000.00	及室	及室	2,500.00
鐵	鐵大	4,000.00	合	合	18,000.00
雜	雜	18,000.00	支務	支務	3,420.00
		638.00	書器	書器	1,500.00
		500.00	告會	告會	300.00
		210.00	及	及	1,165.00
		2,300.00	協	協	9,000.00
		30,000.00	會	會	100.00
		1,400.00	部	部	150.00
		30.00	入與	入與	1,400.00
			代基	代基	7,000.00
			料職	料職	20,000.00
			備	備	1,000.00
			買給	買給	2,743.00
計		128,178.00	計		128,178.00

昭和18年度別口資金收支豫算

口別	收 入		支 出	
	項 目	金額	項 目	金額
(1) (鐵鋼資料編纂資金)	前年度ヨリ繰越金	8,570.99	鐵鋼要覽原稿料費	6,250.00
	銀行預金利息	150.00	印刷製本費	19,732.50
	鐵鋼要覽賣却收入	36,500.00	送給(筆耕, 園工)	2,000.00
	計	45,229.99	事務準備費	1,000.00
(2) (事務員退職金)	前年度ヨリ繰越金	2,649.28	會館建設基金へ繰入	1,000.00
	本年度普通會計ヨリ繰入	1,000.00	次年度へ繰越	1,247.49
	銀行預金利息	65.00	計	14,000.00
	計	3,714.28	計	45,229.99
(3) (服部博士記念資金)	前年度ヨリ繰越	954.45	貸牌製作費	18.00
	基本公債利息	1,000.00	副作賃	300.00
	銀行預金利息	13.00	狀揮毫料	500.00
	計	1,967.45	賞者招待費	12.00
(4) (香村博士寄贈資金)	前年度ヨリ繰越	7,625.59	印信雜	30.00
	基本公債利息	1,000.00	託手數	90.00
	銀行預金利息	135.00	計	10.00
	計	8,760.59	小年度へ繰越高	15.00
			計	975.00
			次年度へ繰越高	992.45
			計	1,967.45
			計	8,760.59

(5) (俵博士記念資金)	前年度より繰越	133.32	賞状用紙及揮毫料 賞状用紙及揮毫料 受賞者招待費 印刷費 雑費	200.00
	基本公債利子	215.00		7.00
	銀行預金利子	1.00		10.00
				40.00
				15.00
	計	349.32	小計	272.00
			次年度へ繰越高	77.32
(6) (河村博士寄贈資金)	前年度より繰越	1,728.40	次年度へ繰越高	1,986.40
	基本信託收益	258.00	計	1,989.40
	計	1,986.40		
(7) (野田文庫資金)	前年度より繰越	24,900.59	圖書室設備費 圖書購入費 圖書目録印刷費 雑費	1,700.00
	基本信託金收益	3,800.00		2,000.00
	銀行貯金利子	480.00		600.00
		15.00		300.00
	計	29,195.59	小計	4,600.00
			次年度へ繰越高	24,595.59
(8) (日本鋼管會社)	前年度より繰越	16,268.06	研究部會費 講演及會費 俸給及手當 印刷通信費 通雜費	8,000.00
基本信託金收益	3,800.00	2,000.00		
同公債利子	3,500.00	3,000.00		
同社債利子	4,200.00	1,000.00		1,000.00
銀行利子	300.00	100.00		100.00
	計	28,068.06	小計	15,100.00
			次年度へ繰越高	12,968.06
(9)甲 (日本特殊鋼會社)	前年度より繰越	735.77	賞牌製作費 賞副賞金 賞状印刷費 賞状揮毫料 受賞者招待費	18.00
基本信託收益	760.00	300.00		
銀行利子	15.00	500.00		
				90.00
				12.00
				30.00
				15.00
	計	1,510.77	小計	965.00
			次年度へ繰越高	545.77
(9)乙 (日本特殊鋼會社)	前年度より繰越	5,199.67	次年度へ繰越高	6,411.67
基本信託收益	1,140.00	計	6,411.67	
銀行利子	72.00			
	計	6,411.67		
(10) (會館建設資金)	前年度より繰越	5,335.14	次年度へ繰越	19,555.14
基本信託收益	200.00	計	19,555.14	
鐵鋼資料編纂資金繰入	14,000.00			
	計	19,555.14		
(11) (今泉博士記念資金)	前年度より繰越	4,698.48	研究援助金	2,000.00
基本信託收益	1,750.00	小計	2,000.00	
社債利子	2,140.00	次年度へ繰越高	6,678.48	
銀行利子	90.00	計	8,678.48	
	計	8,678.48		

購入圖書 和書 3 册

野田文庫購入圖書 和書 10 册 洋書なし

以上報告候也

昭和 18 年 4 月 3 日

社団法人 日本鐵鋼協會

會長 理事 松下長久

#### IV 表彰式

此の日名譽の表彰を受けられた方々次の通り。

##### 第 13 回 服部賞受領者

服部賞牌受領者

日本製鐵株式會社八幡製鐵所理事 理學士 田澤敏次郎君

服部賞金受領者

株式會社神戸製鋼所線材課長 副參事 岩屋 稔彦君

海軍技術研究所材料研究部 佐藤 昇君

日本製鐵株式會社富士製鋼所技師 製鋼掛長 穗坂徳四郎君

株式會社日立製作所若松工場鑄造課長 工學士 宮下格之助君

日本製鐵株式會社八幡製鐵所技師 工學士 八木貞之助君

##### 第 10 回 香村賞受領者

香村賞牌受領者

日本砂鐵鋼業株式會社 取締役 工學士 上野建二郎君

香村賞金(第九條適用)受領者

株式會社昭和製鋼 ドクトル, オブ 有山 恭藏君

所研究所副研究員 フィロンファイ 梶原 林次君

日本製鐵株式會社八幡製鐵所鍛冶職長